成果の説明書

(氏名) 岡村晃子	(学部) 経済学部

1　重要事項

2019 年度は香港市立大学（City University of Hong Kong）英語学科での 1 年間の在学研究であった。

香港での研究テーマは中華人民共和国と英語国で書かれた英語による科学論文(Cell Biology) の比較分析であった。21 世紀に入りより英語国以外の国から科学論文が増え、特に中華人民共和国からの論文が数の面でアメリカ合衆国を超えた分野もあり、今回は中華人民共和国の研究者と英語国の研究者の英語による論文の情報の提示の仕方、読者へのアピールの仕方について焦点を当てて分析した。分析結果は滞在先の香港市立大学（City University of Hong Kong）英語学科のセミナーで発表を準備していたが、1 月になってからのコロナウィルスの被害拡大を抑えるための対策で大学構内が閉鎖となったため中止となり、簡単な説明を学科長に実施して終わる形となった。

また 1 年間勤務校を留守にするということで、2017 年より継続している科研の研究は、今まで集めたデータ（英語を話す楽しさ、自己学習、動機付け、グループでの評価と教員の評価と発表力の向上、発音力との関係）のまとめ、特に最新の研究を把握する良い機会となった。わかってきた点はグループでの評価は学生にある意味のプレッシャーがかかり、それが学習の助けとなり、発表することが今までにない楽しみになるようで、学生間のやり取りはほとんどの学生にとってプラスの要素となるということであった。まとめとしての下書きは完了した。

さらに数年前から少しずつ続けている呼称の歴史的な側面からの研究は、さらにデータを加え呼称研究の会合の年次大会で口頭発表できた。

口頭発表

Akiko Okamura (2019) “Change in politeness strategies through the use of Japanese address forms over the past 40 years” International network of address research June 2019 at Sheffield University, UK.

外部資金獲得

科学研究費　基盤研究 C　2017 - 2019

Dictation と Recitation 融合による発音力を伸ばす教授方法の確立

2　その他の事項

Journal of English for Specific Purposes の査読者としての貢献

3　次年度以降の計画・抱負

科研、香港の研究結果はなんとか下書きを作成した段階までできた。これからはさらに校正して論文として投稿したい。科研の研究の一部は論文として投稿する前に会議で発表し、feedback を有効に生かしたいと思った。そして、6 月にエセックス大学、香港大学で口頭発表できることになったが、残念ながら両方ともコロナウィルスの問題で中止となってしまった。さらに、今年は BAAL（英国応用言語年次大会）も中止となり、香港の研究の発表の機会もなくした。残念なことである。最後になるが、昨年度発表した呼称の研究は専門外ということで、細々と実施しているが、来年度は論文にまとめたい。